京城新聞

●忠州旅行記(三)

三十日忠州 清風

今年は大學の試驗を受けらるゝが、無論通りましよう、非常な勉强家で夜は二三時間しか睡らず、軍醫が止めるけれども聞きませんと云ふ、幼少の時から勉强家でしたから、と僕が云ふ、話は此れにて杜切れたが、間もなく僕は暴徒の事を問ふた、すると、夜づ第一に韓國暴徒の總大將を生擒した時の話が始まる、其の暴徒總大將の部下が二千名に上る事や、十三年間日本軍人に遇はなかつた事や、部下の勇士七十名が決戰した事や、生擒された當時の模樣や尋問中に於ける、大言壯語や、彈藥を深山に隱匿し居たる事や、生擒したる小隊長が感狀を貰つた事等が、殆んど一里の間話し續けられた、話しが了ると清州に渡るべき小橋の河に出た、玆には先發隊の兵馬が未だ渡り了へずに河邊の廣野の彼所此所に散開して居る、も玆に來てから三時間も經つと云つて居る平日は水のない河が少しでも雨が降ると此れだから困る、其れに小さい舟一艘で渡すのだから、大に暇がいると云ふて居る、

空模樣は何となく怪しくなつた、彼所此所の山々には恐ろしい黑雲や旗雲がヌット顯はれて來る、暴徒の話は其れから其れへと移つて行く、喉は益々渇きを催して來る、去ればとて飲む水は勿論ない、唯青田より流れ來る水が道の傍を流るゝ位ひのものである、久しく徒歩旅行をしなかつた僕は、次第に足の痛さを覺へてモー三里も來たかと思ふ時には、連れより遲れ勝ちである、此れでも昔は健脚を以て誇りたものである如何に勇を皷して見た處で昔は昔今は今だトテも連れと一所に歩けそうもない、連れは頻りに急がないかと云ふ、急ぎたいが喉は渴くし足は痛し、失敬だが君達少し先きに行つてくれ給へ、僕は後から行くからと芝生の上に仆れそうに腰を下した、友は困つちまうねと妙な面をして、モー一日が暮るゝじやないか、此れから先きは僅か一里半だ、少し元氣を出して行かうと、さも迷惑らしい模樣である、人の迷惑を知らず面して我儘でもあるまいと、大氣に体を動かして、やつとの事で足を踏み立てた、道の十丁も來たかと思ふ頃には、喉の渴きは愈々酷くなつた、トテモ水を飲まずにや居れずと人の止めるのも聞かず、道傍を流るゝ青田の水に面を挿込んだ、飲むも飲むもない、自分ながら驚く程飲んだ、此の時の氣持は綠陰一睡位ひの事じやない、君は亂暴だと面を見合せるが、僕は頗る平氣だ、もう清州はもう見へるかと云へば、冗談おやないと云ふ、困るなと云へば、そつちらが困るんだい、と云ひ返す、暫くすると清州の山が見へると云ふ、どの山が清州かと問へば遙か向ふに薄墨で繪いたやふな山が其れだと云ふまだ餘程あるらしい、足の痛は益々酷くなる足の裏は熱が出て棒のやうになる熱を冷さうと水に浸せば今度は足が重くなつて、却つて歩けない、で僕は愈々決心して、ドウカ頼む君達先きに行つてくれ給へ、トテモ僕は君達と一所にや駄目だから、決して心配はいらぬと謝る、眞逆連れの者を後に一人殘して行く譯にもならぬので其れじや、徐々歩かうと步調を緩めた其れでも僕には頗る困難である、も半里で清州に着くと云ふ頃には日は早や西に入りかゝつた、驛場に歸る馬子は鈴の音急がしく通つて行く、野良に出でし農夫は、鋤鍬を小川に洗つて居る、其の傍の柳に繫いである牛は淋しい聲を出して、歸路を促して居る、鵲は彼所の森此所の森に頻々に八釜しく鳴いて居る、護衛の兵は農夫を見る毎に瓜はないかと尋ねる、何れもないのであらう、果ては斷念した、幾つとなく柳の小川を渡つて漸く河邊に出た、渡らうにも橋がない、困つて居た處に牛牽きが通る、其の牛に乘つて渡つた、其の賃に銅貨二三枚をやつたら、幾度となく嬉しそうな面付きして、コウマプツーを繰返す、後で聞けば渡賃は此の邊の習慣として拂ふのではないと云ふ、其れでコウマプツーを繰返した譯が解つた、清州は此の日市と云ふので頗る賑つて居る、店の區劃は井然として、燐寸は燐寸、金市は金市と云ふ風にちやんと區劃が定めてある、大凡市日一日の取引高は五千圓で出市人は五千人內外で先づ南韓中大邱に次ぐ市であるそうな、店の內で一番賑つて居るのは飲食店である、其所には半醉の者も居れば、熟醉の者も居る、又盛に飯をパク付いて居るものもある、飲んで居るものもある、謠うもの語るもの茶碗の音箸の音頗る雜閙して居る、多くは立ちながらやつて居る、店先きには牛の頭や骨が亂雜にひろがつて飯には眞黑く蠅がたかつて居る、彼所此所の畔道は市歸りの鼻歌や馬の鈴音が面白く聞かれる、清州館てふ宿に着いた、鞋脚絆を解いて湯に浴つたが驚いた、トタンで造つた隋圓形の躰を漸く容るゝに足程の湯桶で其の底を焚いて湯を沸かすと云ふ珍無類のものである、夕餉の膳に付いたが、田舍には珍らしい御馳走がある、疲勞が甚だしいから寢やうとする處へ面會したいと云ふ人がある、一向に知らない人だが其の人は金融組合の理事で、僕が是非面會せねばならぬ人であつた、談は淸州の金融事情から市日の模樣等耳新しい事を聞たが其の人は多分疲れであらうさて明日會談する事にして歸つた、虫の音は夜の靜まると共に一層近く聞へる月は冴へて田の面に風の渡るのも見へる、夜の寂寞を破つて豐年草取りの鉦皷が思出したやふに鳴る、身体は棉の如くになつて居る僕も身に責任あれば安き夢も結ばれなかつた、

一 文苑 一

●囚屋の夢

青楓生

夕風凉し青山の原、幾ればかはる破屋の光景、ア、定めなき、、眞榮枯盛衰の運命か幾度か往きつ、復りつ吾が家の門、容易に入らん術もなかりしが、漸う意を決し、悄然として立ちし男三郎。

「アラ父さんが……母さんれ父さんが」馳け寄る君子、出迎ふ曾惠子、暫時無言、湧き來る熱涙滂沱たり。

「貴郎、さぞ淋しかつたでしやう」とれろ〳〵聲。

「曾惠さん辛かつたね……」聲は亂れて二の句も出です。

「れ父さん妾た母さんと毎日〳〵泣いて許り居たわもう父さんは家に居んだわね」見上ぐる吾が子のいぢらしさ、オ、と許に抱きしめて、よゝと泣き崩れぬ。

靜寂破る靴の音、果敢なきものは夢ぞ、淡雪の夫の如しあゝ憐れ身は同じ冷き囚屋中

小説 新不如歸(八十七)

篠原嶺葉著

敏男は何も辭を續けて、

「それから、滿州に赴つてからも、自分の体が何時戰死するかも判らないのに、自分の事なんか思つても見ないで暇さへあれば百合さんの事ばかり心配して、どうぞ私の凱旋するまでに病氣が全快して居て下れるやうに、原のやうに樂しい夫婦になれるやうにさ、其事ばかりを眞個神樣に祈つて居つた、すると幸ひにも再び參謀本部詰になる事になつて召還されたから、やれ嬉しや這度こそは百合さんと原の境涯になれるであらうと、匆々歸つて見りや……情けない百、百合さんは、もう、こ、こんな姿になつて居るのだものを……」

涙は滂沱として墓前を潤はすのである。

「……しかし百合さん、清子さんからた前の書面は確に受取つて、こ、この通り片時も放さず肌身につけて、百合さんだと思つて持つて居る、百合さんが私を思ふて居て下れた親切は、(貴方の事は死んでも忘れは致しません、假令離縁されました身の上でも私は貴方の妻だと思つて死んで參ります)こと、書いてある此書面で能く分つてる、よよくもこれほどまでに思ふて下れた、わ、わたしやあんまり悲しくて、涙に目を閉ぢられて讀むことも能きなかつた……そ、その代りに、百合さん、能く聞いて下れこ、この敏男は百合さんの親切に酬ゆるために、もう一生妻は娶らないで、獨身で暮す、獨身で……」

と、云ひ了つて、また石新なる墓碑に凭れて心行くまでと泣き悲しむのである、心の故か石碑が動く如く見えた。

折から足音靜に、

「尾、尾花さん、能く參つてやつて下れました……貴方の辭を聞いて、私もこ、この通り貰ひ泣を爲ました、百合も嘸滿足して佛になるでせう、百合に代つて私から厚く御禮を申します。」

と、涙ながらに現はれたは西脇義祐である尾花はハッと驚いて顏を仰げれば、思ひもよらぬ西脇であつたから、悲みに一層悲みを誘ふて、

「た、西脇さん……ど、どうか私の心中をさ、察して下さい。」

と、突如其手を把つて又も泣き悲むのであつた。

「御、御道理であります……。」

さ、後は涙に消ゑて、唯秋風の墓樹の梢を渡る音のみ哀に聞ゆるのであつた。

●●●●●●●

因に聞けば、猿渡は其後ある投機事業に失敗して、昨日の榮華は今日の夢となり、家屋敷まで他人手に渡す悲運に沈み、清子は主なき子を孕みて、袖に隱せぬ身の上となりしとか、噂に依れば足柄少佐の胤と云ふことだ、奈加子も猿渡の失敗と、敏男の獨身說が改悛の動機となつて、時々は百合子の墓にも參るさうか聞いた。(完)

京城新聞

拓殖と傳道

殖民地に傳道の必要なるは今更に[illegible]もなし、然れども日本の政治家は宗敎に冷淡にして、遺性的勢力の偉大にして社會に及ぼす影響を閑却するの傾きあり、宗敎家の傳道事業は單に佛陀や、基督の福音を宣傳するのみに非ずして、學校、病院、孤兒院、工場等に對する靈的經營となし、人心に靈的慰安を與ふると共に、實在社會の組織に平和と恩惠を寄與するなり、殖民地の如き新たに社會を組織する所に於ては、傳道事業の効力は寧ろ政府の施設に優ることあり、殖民政策に幾多の經驗を有する英國に於ては、近世傳道事業の効力を認識し、殖民地官憲と宣敎師との關係は益々親密を加ふるに至れり、而して傳道會社の消費する一ペンニーは、政府の節約したる一磅に該當すべしと迄言はるゝに至る、余輩も各國殖民地發展の狀態に鑑みて傳道事業の忽にすべからざるを切に感ずるものなり

韓國に於ける日本移住民の如きは、風俗習慣を異にせる韓人間に介在するを以て、殊更に日韓兩社會の融和を必要となす、故に傳道事業は缺く可らざるの機關なり、既に宗敎を共にし、病院を共にし、孤兒院を共にするに於ては勢ひ其間の調和は圓滿に保たれざるを得ず、英米佛等の宣敎師等の傳道事業に徵するも其効力の大なるは分明なり、若し夫れ日本の宗敎家にして外國宣敎師の如く、夙に韓國の傳道に從事し、彼の如く八道に其宗敎を傳播し學校、病院等を建設して韓人等を敎導せしならば、昨夏以來の暴徒も軍隊の力を藉らずして、能く宗敎家の力に依りて鎭撫せしやも知る可らず或は云ふ日本の政治家が宗敎に冷淡なる爲に一衣帶水の韓國に於ける傳道を開始せざりしと、开は甚だ非なり、宗敎家が政府の庇護に依らざれば傳道する能はずとするが如きは更に非なり、宗敎は政治以外の別天地なり、玆に於て余輩は日本宗敎家が甚だ意氣地なくして使命を完ふするの資格あるもの少きを慨歎せずんばあらず

今や拓殖會社は創立せられんとす、從て組織的に移住民は各地方に配付せらるべし、從て傳道事業の急を告ぐるものあり、然るに我が宗敎家の狀態は如何、佛敎も基督敎も共に振はず、僅に居留地内に蟄居して只其存在を證據立つるに過ぎず、斯の如き狀況にては到底殖民地に於ける新社會の生命となり、調和となることを望む可らず、余輩は佛敎と基督敎とを問はず、此新社會の要求に應じ毅然たる決心を以て起たんことを熱望するなり、本願寺の如きは東西兩派共に來りて布敎せりと雖も、殆ど葬禮讀經の機關に過ぎざるの觀あるは余輩の憤慨に堪へざる所なり、我宗敎家には卒先して此大任に當るものなき乎、一人の熱誠なる殉敎者なき乎、余輩は我宗敎家の憤起を望むや最も切なり

●對星樓茶話

△日本の借款を償却するために猛烈なる絶叫と熱誠なる鼓吹とを以て集めたりし國債報償會の勸財を私消したる梁起鐸は昨日を以て英領事より引渡し候由、

△廻る因果とは申し乍ら、日本排斥を目的とせるベッセル並に梁起鐸が今更ら公衆の勸財を費消せんとは頗る奇妙の配合に候はずや、

△國債報償は韓人が保護政府に對する初期の排日外交なりき、彼等は自國が帝國の保護に付せられたるを憤り、口を國債の償却に借りて排日外交を試みたりき、而かも其募集せる金額は遂に十萬圓を上る能はざりき、

△ベッセル及び梁起鐸は其鼓吹ご其愛國税の徵收に聲援を與へたりし爲めに斯くは私消すべき權利ありと思惟したる可く、今更ら韓人の外交を弄し、其心腹の危險なる驚くばかりに候、

△左程に日本借款が危險なれば、償却せんと帝國の希望する處に候、而かも韓人は國債の償却を目的とせるに非ずして彼等は斯る會を標榜し、斯る行動を大言壯語して、帝國に面當てと致したる迄に候、彼等は外交術を使用するの外實は格別の愛國心も無き今更らベッセル梁起鐸の如き山師新聞記者に利用せられたるは憫然に堪へず候。

△恐らく此愛國税はベッセルの徒のみならず、自稱愛國者愛世家の鼻の下の建立物と相成りたる可く、當事者にして更らに歩を進めて調査相成候はゞ漢城の策士連乃至團躰新聞社中には共通使用額を發見可致候、

△韓人は廣告と躰面とに就て尤も面白ろき趣味を有せり、恐らく此愛國者の勸財も國際的に廣告せんが爲めに演じたる一種の演劇に外ならざる可く候。

雜報

●兩つながら人權侵害（萬朝報）

民長を官撰に移して在留民自治の上に退歩の變制を施したる統監府は、其の變制を非難する言論に對して極度の抑壓を加へつゝあるに似たり、兩つながら是れ人權を侵害するの甚だしきもの也我が國民は事の遙かに保護圈域内に屬するの故を以て之を輕視すべきに非る也

●大内代議士と民長官選問題

目下木浦に滯在中の代議士大内暢三氏は今回統監府令を以て發布せられたる居留民團長官選問題に對し其所屬たる憲政本黨本部に向ひ同問題に贊成なるや否を交涉中なるが同本部に於て贊否決定の上は直ちに入京し此問題に對する調査を遂る筈なりと又同代議士は代議士として政友會及び大同倶樂部其他の各政派に對し反對の意を通じ交渉中なりと當地知友に書信ありたり

●嚴妃の渡日に付（某氏談）

英親王の生母に當る嚴妃が來る十月中渡日するに付東京に於て女官連は歡迎準備に取掛れりと云々とは東京電報の傳ふるところなるが余は右電報に何等の事實的根據なきを信じ從て該電の出所を怪しむものなり、假りに嚴妃にして傳ふるが如く渡日せんとするか开は英親王に面會の爲なるべく而れども朝鮮に於ては兎も角日本に於ては假令へ嚴妃が太子の生母なりとは云へ決して正當なる太子の母と認むることなかるべく從て折角渡日しても普通の韓婦人若しくは韓宮廷の一女官としての待遇を受くるに過ぎざるべく斯くしては實際に於て當人の嚴妃も不快に感ずべく亦日本側に於ても物足らず感ずることゝなるべきなり、仍て愚案を以てすれば寧ろ嚴妃にして太子の母として名譽の東上を爲さんとせらるゝならば此際現皇帝より皇母宣下の事を爲さしめ名實共に太皇帝の御連合となり公々然と太子の母たるの資格を獲得せられ而る後渡日の事を決行さるゝが最上の策なるべし一片の東京電報素より深く信を措くに足らずと雖も嚴妃が現在の儘にて渡日せられ何かの事より豫測せざる間違等の起ることもあらば开は結果に於て面白からざるべきに付敢て愚見を述べ置くものなり云々

●陵園墓の整理

宮内府所管たりし陵園墓は其の內核字內（墓地の內劃以內を內核字內と云ふ其の以外を外核字內と云ふ）を除くの外は總て國有に編入する事は曩に帝室有財產國有所屬の勅令內に規定せられたるを以て財產整理局にては目下其の限界決定に關し調査中なるが此の決定は韓國人の墓地に對する觀念を根本より變革せしむるものにして由來墓地の良否が一身一家の吉凶禍福に大關係ありと迷信して墓地を尊重し其の區域を廣大にして一國の生產を妨げつゝありし一般人民の墓地整理に皇室より模範を示さる事となりたるものなれば當局者は此の際一般人民の墓地に關する取締を行ふは好機なるべしと云ふ

●釜山稅關埋立工事（製氷所と冷藏庫の建設）

稅關魚類輸出入物場として既に今明日より埋立てせらるべき工事は度支部の事業にして今爾港とする時は農商工部の管轄に屬し年度に於て繰變へを爲す必要あり是は元來前目賀田顧問の施設し置かれたるものにて着々進行の今日に至れる也埋立に屬する海面坪數は郵船會社地先より水產會社倉庫前迄一直線に約五百坪にて製氷所冷藏庫とを建設すべく其工費金二十萬圓にて一部は本年度內に竣工せん設計なり製氷器械は來月中に英國に注文せし分廻漕の筈にて器械の据え附けを終るは來年なるべし此製氷は水產會社と關係を有する由にて一般の工事に就き人夫を要するもの多く港の設備を將來に想ふときは釜山の發展想外に出づるものあるべし埋立測量を終りたれば捨石を投する等の起工を取急ぎ中なり

●漁基と蘆田の處分

國有財産整理局は此の程國有財産貸下に關する規程を制定する迄は同局所管財産に關する請願書は此れを受理せざる旨公告したるが右財産の中漁基及び蘆田の如きは季節に關係して其の處分を要するものあるを以て之等は從來の習慣に從ひて處理し多くは前年の權利者に引續き許可する方針にて調査しつゝありと云ふ

●土地に關する請願者への注意

未墾地、山林、土石採取等に關する諸種の請願書を提出する者近時頗る多數にして所管官廳は此れが調査に忙殺せられつゝある由なるが此種請願者の十中八九は其の目的地が國有なるか或は民有なるかを充分調査せずして願書を提出するが爲め當局者は徒らに時間と手續を費し出願者も初めより不可能なる請願に手數を煩す事となるを以て土地に關する請願者は最初充分に其の所屬を調査したる上にて願書を提出すべしと當局者は語り居れり

●日韓及び對清貿易に就て（戶叶京商書記長談）

日韓及び對清貿易に關し戶叶京城日本人商業會議所書記長の談話を記せんに財政に伴はざる政治は零なるが如く經濟的發展に伴はざる殖民政策は又た零なるを免れず從て我日本が韓國に對する使命を完ふせんと欲せば最も此點に於て注意を要すべき事であらふ統監政治は果して吾人の理想とする所と一致するや否やは姑く措き彼の拓植會社や不動產銀行設立の如き將た韓國啓發は經濟的實力發展に待つべき事を當局官憲も認めた結果ではあるまいか想ふに今後の統監政治は從來の形式美にのみ流れず實質上の治績大に見るべきものあらうと期待する勿論此二者設立の義に就ては當商業會議所の如き夙に率先し又在韓聯合會に於ても再三請願を爲し來つた併し這回事實上此設立に盡力されたるものは伊藤公始め桂侯であるイヤ實際の盡役者は曾禰副統監であるのだ世人は拓植會社の如き其主唱者たる桂侯のみを知つて實際の發案者たる本會の曾禰子あるを知らない者が多い……閑話休題。

●日韓貿易の盛否如何は直ちに以て統監政治の實力如何を卜するに足らざるも我經濟的勢力の上に大なる關係を有する事は言を俟たない事である余は自己の立場として否寧ろ商業會議所の職責として此點に深き注意を常に拂ふと同時に諸他の方面に向つても研究して居る而かも开は(一)政治上及び(二)製作品(三)關稅の三點より調査論究するの必要があると思ふ之に就ては更に期を見て詳細な私見を陳べ樣と考いて居るが要するに政治關係の如何必ずしも貿易關係の盛否に伴ふ者に非ずで如何に政治的實力を有するも經濟界の信用關係迄左右し得るものでない例へば統監政治如何に韓國に對し優越權を有するも經濟的貿易關係に於て又同一の優越權否信用力ありとは斷定出來ない法的効力が時と人と場所との關係に依つて支配されるが如く經濟的關係に於ても又此情勢あるを免れぬ●次に製作品に就ては昨今粗製濫造の結果著しく其信用を失墜したる傾きあるを以て當會議所は極力其生產地に向つて之が矯正方を警告しつゝあるも兎角我商人は目前の個人的小利にのみ眩惑し國家永遠の經濟的信用を保維することを忘却するのは甚だ痛嘆の次第である又製作品に付ても其仕向け地の慣習嗜好及時期購買力如何を始終研究せねばならぬ（未完）

●仁川港輸出入額

本月中旬に於ける外國貿易額は輸出四萬二千六十圓、輸入五十四萬四千七百三十六圓、合計五十八萬六千八百四十六圓なり輸出品中最も多額なるは米の一萬四千九百二十一圓、大豆及小豆の一萬九十三圓にして輸入品は石油の二十萬六千五百二十圓、絹布の四萬二千六百七十三圓等なりし

●仁川民會延期

一昨日開會の筈なりし仁川民會は開會時間に至り遽かに議員中二名の病氣者出で折柄民長問題協議會を開くべき筈にて成べく多數出席を望む必要あるより止むなく延期することなり廿四日開會することに決せり

●選擧人名簿調製

京城居留民團の選擧人名簿は八月十九日現在の資格者に基き調製中にて此れが調製事務は大に進捗し月末迄には完成する筈にて九月七八日頃より一般の閲覽に供することゝなるべしと云ふ

●鴻山定山間警備電話

架設中なりし同電話は此程竣成し八月十九日より通話を開始せり

●統營の狀況

鎭南郡統營地方は一般に平穩に歸したるも只固城及晉州に通ずる道路より北、東馬山浦より晉州に通ずる道路より南、西の間は我威力の全く及ばざる地區ありて其面積も稍々廣かりしが今日に於ては我官憲も之に注目する所となりしを以て旅行等何等危險なしと云ふ統營に於ける出入船舶は日を追て減少の傾きあり漁業は頗る不良なれども一ケ月以後には良好となる見込なりと市場に於ける人員は大略日韓人合して三千餘に及べり而して三宅元二郎なる者の主唱にて一ケ月二回發行の一新聞社を設立せんと協議中なり

●長箭浦近況

長箭店は江原道通川郡の最南に位し東西北の三面は山岳起伏して田畑は乏しく隨つて米穀野菜等の需用に最も困難なり南方一帶は長箭灣に瀕し灣內水深く浪靜かにして海上不穩の際は時々艦船の避難することあり交通は御用船晨海丸月二回元山より定期寄港し何日韓丸も不定期に元山より海岸諸邑を經て寄港す郵便物は元山より陸路安邊、欲谷、通川を經て此地に來り通川へは隔日高城へは三日毎に往復す又元山より電話の架設あり民情は概ね純朴にして憲兵分遣隊の同地に初めて來駐するや大に歡迎の意を表し穀物の供給等甘んじて諾せりと云ふ

●法政大學の懇親會

東京法政大學に緣故ある在韓諸氏は同大學總理梅博士の來韓中なるを機とし本日正午より龍山八景園に於て懇親會を開催する由

●島根縣人會

在京島根縣人の組織に成る島根縣人會は明二十四日午後六時大和町三丁目梅の家に於て梅博士の爲め臨時會を開くと云ふ

●法典調査局員紀念撮影

法典調査局委員一員は民事訴訟法案審査終了の紀念として一昨日午後慶福宮內に於て撮影せり

●西本願寺說敎

本日午後八時より長谷川町西本願寺出張所に於て「無は有に非ず」と題する日本人に對する巖開敎使の布敎ある筈なり

●日曜講壇

旭町日本メソヂスト敎會に於ては本日朝十時禮拜會ありて二大禮典を執行し夕八時よりは傳道說敎あり木原牧師「十字架七箇條の盜賊」なる題の說敎ある筈

●韓太子の大磯着

關西旅行中なりし韓太子及び伊藤統監一行は二十一日無事大磯に着せられ歡迎盛んなり

●村田明石兩將軍

北韓視察中の村田少將明石憲兵隊の一行は昨日會寧に着せられたる旨其筋に電報ありたり

●松井局長の消息

西海岸地方視察中なる松井警務局長は一昨夜海州に着し昨朝觀察府警察署等を視察し韓人の重立ちたる者百五十名を會し觀察使と共に時局に關する談話を試み本朝は載寧に向ふ旨電報ありたり

●俵次官の仁川行

俵學部次官は昨日午後五時四十分南大門發列車にて仁川に向ひ明廿三日夜又は明後廿四日朝歸京の筈にして右は八景園ホテルに轉地療養中の子息見舞のためなりと云ふ

●西風支店長の視察

大阪商船會社仁川支店長西風重道氏は二十五日頃汽船にて鎭南浦及安東縣方面視察に向ふ筈

●沿岸觀察員一行

沿岸航路視察の爲め釜山より櫻井丸に便乘の爲め釜山に向ひたる仁川廻漕業代表者立石幹山本會議所書記一行は昨廿二日午後二時釜山及木浦に向ふ

●平木事務官の出張

平木法典調査局事務官は梅顧問に隨行近日中東京出張の筈

●黒部稅務課長の視察

目下嚴父大病の爲め東京に歸省中の黒部仁川稅務課長は一昨日付を以て橫濱神戶大阪港灣視察の辭令に接したり

●仁川警察署長歸任

水原に開會中の各署長會議に列席の爲め出張せる仁川宮栢署長は明日歸任の筈

●警視廳警部の內部出向

警視廳警部牧瀨伊右衛門氏は昨日內部へ出向を命ぜられたるが近々地方警察署詰を命ぜらるゝ筈也

公人私人

▲岡田嘉藏（キリンビール商會理事）一昨日來京天眞樓

▲淺井雅承（憲兵隊附一等主計）一昨日來京山本旅館

近事片々

▲一雨毎に秋風立ち朝夕は目切り冷氣を覺ゆ庭園の鈴虫松虫の啼く音ぞ最と面白し

▲黄昏杖を城外に曳かば日暮の鳴聲何となく秋氣に打たれ詩趣頓に湧き來る心地す

▲日中東門外松林に遊ぶも快也空氣は稍く曉望は佳時に割館を開て適意に喰ふ亦快

▲東門外電車の盡る所に小川あり淸流にして水底明也小雜魚在往左還手捕すべき也

▲稍々深き處柳の蔭に釣を垂るるも面白し飯粒もて容易に釣上る亦日際の好遊場也

▲此邊の野原一面に秋草あり自然に咲き出でたる處却て趣きあり是を手折も興あり

▲故閔妃の墓に詣てゝ十年以前の追懷に耽るも亦一興何れにしても一日の消遊に適す

▲進會は三箇條を提げて內閣總辭職を勸告しつゝありと專ら噂せらる是れ事實乎

▲宮相の彈劾も其一箇條なりとの事他は慶善宮に關係せることなりとの風說頻なり

▲補助憲兵地方に於ける暴行[illegible]甚だしとの評判果して然らば隨分厄介千萬の代物也

▲地方に依りては暴徒よりも怖ろしきて良民の逃げ出す者ありとは倩も困つた事也

▲併し始より此事あるべきは少しく事情を知るものは豫想せり今は只解散あるのみ

▲局に當りては判らぬものか批評の必要ある之が爲也岡目八目とは千古の眞理なり

▲當局者批評や輿論に耳を傾けざると雖ゝ斯る失敗を招く注意せよや局外の忠告に

▲警視廳存廢問題は丸山總監轉任の噂と共に世の注意を惹くに至れり其成行や如何

▲水原の京畿道觀察府を漢城府に合して漢城府に警察部を置くとの說もあり事實乎

▲漢城府部內の警察部長には松井警保局長兼任すべしと警視廳の廢止は一寸問題也

▲警視廳よりも學部を內部の一局とする方が急務なり當局者此忠告に傾聽せざるや

▲宋氏內相となり未だ何等刮目すべき事をなさず奮勵一番之を決行しては如何にや

▲新任郡守にして地方人民に不人望なるもの尠からずとの報難あり左もあるべき也

▲觀察使をして撰擇せしむるが抑も誤り也賄賂請托の盛に行はるゝ蓋し當然ならん

▲土佐に於て長さ八尺廻り一尺の色彩最も奇なる珍らしき大蛇を捕獲したりと云ふ

▲香具師に賣るよりも好蛇家の日向輝武に繰込まんと照會せり日向寄[illegible]見込

●紙幣二種の詐僞

茨城縣水戶市上市寰匠町五番地現住居明治町三丁目八番地無職相澤正彥(三八)大阪市西區京町堀上通町三十五番地現住居大手町二丁目無職小林重五郎(三六)大阪市南區難波稻町二丁目九百十番地現住居西小門通小和商會內大木宇之助(四十)東京市南葛飾郡小松川村四千四百四十五番地現住居明治町三丁目八十三番地福島毅一(三五)の四名は去る十八日午後九時頃南部警察署の手に捕縛されたるが罪名は詐欺取財未遂なるが今其の顚末を左に記せん

彼等犯人は第一銀行券約一圓紙幣十五萬圓を先き頃大阪より密輸入したりと稱し一圓を五十錢に賣買する手段を講じ竹園町質屋小栗粂吉を介して南署後洞八十七統十戶李鳳鎬に賣りつけんと談判したるに李は二千丈け買ふことゝなり取引の場所を大手町田舍屋なる料理店の二階と定め去る十七日夜八時頃會合せんとの話を極めて立別れたるがサテ當日にいたり相澤は小林、大木、福崎の三名と同伴し田舍屋に赴き待ち居たりしに肝心の小栗及び李には少しく取り込みありと稱して來たらず依て空しく家に歸りたるが翌日は明治町料理店敷島樓松谷ヒイ方にて同時刻を期し會合することゝなしたりサテ十八日の夜小林と福島とは各々釘付箱一個を所持し豫て約束の場所たる明治町の敷島に赴きたるが其の際小林は相澤をして其同樓に入る道路に潜伏せしめ大木をして其の入口に立番せしめ用心に用心を加へて窃かに小栗及び李の二人の來るを待ち構へ居りしが話變つて此方は小林及李の二人は時刻に違はず急いで敷島樓に赴かんとす途中を早くも南部警察署巡査の探知する所となり二名のものが同樓の二階に上るを見屆けマヅ第一に件の道路に潜伏しつゝありし相澤を捕縛し尙大木を捕へんとせしに同人は早くも逃走の意を決し正に逃げ去らんとする所を取り押へつゞいて二階に踏み込み今や小栗及び李が件の金を取引せんとする所を御用の一聲と共に難なく捕縛したりといふ因に十五萬圓の密輸入紙幣といふは紙幣に非ず新聞紙を手形と圓形に切り厚く重ね其上を油紙等にて堅く包み糸にて緊束したるものにして値段としては十錢にも足らぬ數個の新聞紙の包みものあり斯くて一束を五百圓として前記の李と二千圓の賣買を約し相方受取りたる上若し李に於て不穩の行動ある曉には前記大木、相澤の二名は警官に裝ひ小林及び福崎を引致する風態にして共に倶に逃走するの企なりしと尙は被害等の申立を聞くに小林は相澤の教唆により斯くは惡意を起したるものなるが大木は小林、相澤二人の饗待を受け是非來て呉れよ加勢を賴むとの事にて加入したるまでにて捕繩又は名刺など持參したることなく又福崎は十六日相澤に久し振りにて邂逅したる際相澤より僕は韓人四名日本人一名に夫れ夫れ取引の關係あるも彼等の亂暴なる到底敵する能はざれば何分應援し呉れよとの事に斯くは小林と同伴したるなりといふ

●白蓮花　(四)

斯くて春子は知人の世話にてある兩班の家庭敎師にとは住み込みしが家人の氣受けも極めてよく從つていとも愉快に氣も晴々と其の日〜を送り居りしがいつしか一月も過ぎ二月も去りて桃李漸く綻び初むる三月の中旬とはなりたり

吁々定めなき明日をも知らぬ人の行末折角春ながら此の適當なる家庭敎師に雇はれてより僅か四月と經たざる中に儘ならぬ浮世の習ひ爰に端なくも春子をして又々小さき胸を痛めしむるの時機に會せしめたり升は春子が夢さら身に覺えなき聞くも忌はしきみだらなる噂さの何人のそしり言より出でしにやパッと世間の人の口の葉に上り『ヤレ那の女は莫逆者なり』とか『淫を鬻く女なり』とかの評判ソコ等此所等に擴まり果ては春子が職を奉じ居る家人の耳にも入りたれば春子は遺憾やる方なく漲る胸の口惜しさに机にもたれて泣き明かせしことも屡々ありしが併し此れも身に覺えなき事とはいひツマリは自分の不德より招きし罪ソレに斯く好ましからぬ噂の立ちし以上は一時たりとも此の家に居るは忍はしからずと先きに心配し呉れし知人に其譯を聞かし斷然其の職を辭するに至りたりサテ其の後春子は間もなく又ある知人の周旋にて前號記せし通り同德義塾に敎職を奉ずることゝなりたるが又々不思議なことにはソコにても忌はしき噂を立てられ女心の昨今は如何に自分が若き身空の夫なき身體とはいへあまりといへばあまりの因果と悲嘆の涙に掻き暮れ居るといふ併し記者の寡聞なる未だに春子未亡人が此の忌はしき噂さを立てられたる原因を知るに由なきも要するに火の有る處必ず一片の煙あるを以て今は努めて之が世上の噂を打ち消さんことに心掛くると共に今後は此等の噂を世人より立てられざるやう意を用ひられたきものなり

●淺田商店の猾策

他の商店を陷る

仁川宮町なる淺田商店は成歡、天安、靈山地方に支店を有し日用雜貨商を營み居れるが近頃の不景氣にて損失のみ來すより一策を廻らし同地方に於ける酒保商人が軍隊と結托して不當の利益を占めつゝあるが如くに仁川商業會議所に申告し又た地方の店員をして盛んに軍隊及び酒保商人の不法の所爲ある旨を仁川商業會議所宛郵送したるを以て同會議所は之を事實と信じ各新聞社に語りたる爲め遂に事實として各新聞に掲げらるゝに至れり之を以て淺田商店に於て此機會を利用して其事業の擴張をなさんものとせしものゝ如く信ずべき筋より聞く所に依れば軍隊及び酒保商人には何等不正行爲なく全く淺田商店が自己の爲めに他の商人を陷れんとしたるものなりと

●在留禁止

香川縣小豆郡豐田村平民現住居旭町二丁目石工山口德吉(三五)は此度安寧を妨害するものと認め向二年間在韓を禁止せられたり

●自殺未遂(井戶投身)

昭義門通り十九番戶平民福島虎吉(五三)は去る二十日午後十一時西部培材學堂前の井戶に身を投じ自殺を謀りたるも傍らにありて之を認めたる韓人二名の爲め救助せられて命を取止めたり西部警察署にては此急報に接し警官出張取調べの上身柄は虎吉の家族に引渡されたり虎吉が無分別の企てをなしたる原因に就て聞く所に依れば虎吉は八九日前より精神に異狀を來し取止めなきことを口にするなど擧動怪しきを以て家人等は大に警戒を加へ居たる所同夜に限り家中人少なかりしかば其隙を窺ひ家出したるものにて虎吉は夫より前記の井戶の邊に來りて四邊の狀況を見廻はすなど如何にも怪しき擧動なるより通りかゝりたる李範熙(二六)韓滄國(三七)の兩人は密かに其模樣を覗ひ居たるに夫れとも知らぬ虎吉は其着衣を脫するより必要投身と覺りたれば直ちに駈け付けたる時は既にく虎吉は身を翻して井戶に投じたるものなりしと

▲▲▲次回小說豫告▼▼▼

……夏季の好讀物……

連日江湖の喝采を博しつゝある、悲哀小說「新不如歸」はいよ〜本日を以て全編を了り、名殘り惜しくも大方の讀者諸君をして、悽惋沈痛の餘情綿々として長へに禁ずる能はざらしめんとす、依つて本紙は更に從來の作者篠原嶺葉氏に托し「皐月闇」なる長編を揭げんとす、筋書は明治最近に於ける或る華族のれい家騷動を脚色したるもの、構想怪奇、情趣幽悄、或は佳人暗淚に咽び、百鬼夜陰に囁やき壯夫世道を慨する等、波瀾重疊、變化多樣、克く現今上流社會の裏面を爬羅剔抉して毫も餘蘊なし若し夫れ作者が洗練老熟の筆と、優婉華麗の詞とに至りては既に業に讀者の熟知する所、所謂情想、文彩兩ながら相俟つて正に錦上花を飾り、花下雪を飛ばすの美觀を呈するべし、請ふ讀者刮目して、揭載の日を俟ち、之が內容と實質とに就て徵せられんことを

▲▲▲次回小說豫告▼▼▼

……夏季の好讀物……

●薄命なる酌婦

生れは何處か白浪の岩に碎けて花と散る鼓南大門は電車通りに花の家とかいふ小料理屋ありソコに今年取つて二十許になる色の靑白きさも病身らしき酌婦ありけるが此の酌婦の身上こそ世にも又憐れにも氣の毒なものも少なからざるべし女の名はれおいさかいへるが去年の春頃迄西小門通りの福來亭に酌婦奉公を爲し居る中フトした緣から近所の料理屋のある板場と心安くなり末は夫婦と例の紋切形の情約早速成りて爰に旭町一丁目は名古屋城の橫丁の小さき溫突を借り夫婦水入らずのチン鴨の差し向ひに樂しく面白ろく其日〜を暮し居りしが月に叢雲花に風其の中男の方は他に增す花の出來しと見え俄かに女に秋風を立て時には待ち焦れ居る女の胸の中をも察せず家に歸らざることも屡々にて爲めに女も男の樣子を疑ひ偶には『オンドル叩いて此方の人各氣でいふのおやなけれど』の例の覺えのある喇叭節の文句其のまゝに應用してナゼに泊まつて來ましたかと涙片手に泣き縋ることも屡々ありしが併し男の心が既に秋の空と變はりし以上はナカ〜に素のヨリを返へさん詮もなく女は班女愁扇の怨を抱いて毎日不快の月日を送り居りしが其の中に身にあまる心配が滿みてか頓て不運にも病を惹き起し終に重き枕にとは就きにけりサテ男は二世を契りし女が重き病にかゝれるにも拘はらず更に介抱せざるのみか見向きもせず三度の食事は勿論醫者にさへ掛けざる程なれば女は日に增し衰ふる一方にて終には明日をさへ測られざる重躰に陷りたりしかば近所の者は見るに見兼ね何にや彼やと病にかなふ藥やら食物を與へホンに可愛想な女だと評判せざるものはなき程なりしが幸にも病はダン〜快方に赴き終には床を離るゝに至りしより女も非常に打ち喜び此れも皆さん方のお陰と只管心に謝するにつけても那れ程迄た男の心根が恨めしくもれそろしく奇麗薩張りと緣を切つてもらひ又々前記の花の家にと酌婦奉公に住み込みたる迄の一條が泥峴街邊の小僧より注進ありたり

●酌婦の隱れ家判る

太平町二丁目十四番戶飮食店淸原キヨ方雇酌婦岡ミサヲ(二十)は去月十九日八十圓の前借にて同店に住込み例の商賣をなし居る中東大門外紅葉町吉田石材店の雇人松浦岩太郎(三十)なるものと深くなりて妾しや貴郎の女房じやもの何の浮氣などして外に男を持ちましようかなど巫山戲居りしに岩太郎が誘引出せしものかミサヲは五六日前家を出たまゝ歸り來らざるよりキヨは大枚八十圓の代物を逃してなるものかと靑くなつて狼狽出し鵜の目鷹の目にてキヨロ〜と心當りや道行く女を搜したるに十九日ミサヲは岩太郎の住家に潛みモシれ前さん今日の米がないからドウしますへ何かんと夫婦氣取りで巫山戲居る所を搜し當てミサヲを連れ歸り之で安心アー暑かつたと團扇で風を入れたるに一昨日の夕刻に至り岩太郎は同業の森一松(五十)なる者を伴ひキヨ方に押し掛けミサヲは奉公したくないから俺が引取ることにするが前借の八十圓は後日支拂ふに依り是非ミサヲを渡し呉れと强談に及びたればキヨは恐を抱き警察署に此旨訴出でたればミサヲ岩太郎一松の三人を呼び出し取調べの末ミサヲはキヨに引渡され岩太郎一松の兩人は說諭の上放還されたり

●鬼の如な母

中署帽谷といふ所に住する柳昇東とて郡守の職を奉して金川郡に在勤し居れり此柳に一人の娘あり十二歲の時良緣ありて現今參書官を勤むる李某に嫁ぎたるが如何なる事情ありてか李は其娘を嫌ひ專ら花柳の巷に遊び或る妓生の色香に溺れ其妻を顧みざること十餘年に及び最早二十一の花盛りの年となる迄深閨にありて獨り夫の無情を嘆ち居りしに如何なる魔風や吹き誘ひけん或る日他の男と仇し契りを結びしが因果の種となりて妻の腹に宿り今は袖でも蔽せずなりしかば夫はそれと見て取り夫の眼を忍んで密男を持つとは不都合なる阿魔と大に立腹し遂に其親里に送り返へしたれば其親母は娘が不始末を見て憤り又た柳家に對して恥かしと直ちに容房に押込めて先づ墮胎藥を服せしめて半產せしめたる上石灰水を以て之を洗滌せしかば何かは以て堪るべき其苦痛の劇しき爲め其場に悶絕するに至りたるも間もなく蘇生はしたものゝ其容体の容易ならざるに驚き此次第を金川郡にある柳郡守に急報したれば柳は不日上京すべき由返書來りたるが中に汝母の暴行は言語同斷なるも事此に至る事ろ早く死するに如かず早く石灰を注ぎて殺すべしと云はんばかりの文言なりし由此事實を聞きたる同女の親戚なる一人の女之を氣遣ひ樣子を見んとて同家を訪ひしに女の母親は之を拒絕して內に入れしめざりしも漸く門を排して內に入り苦悶し居れる娘を慰めたるに女も大に喜び同女の手を執り涙を流して母の無慈悲を訴へ何卒此苦痛より救ひ呉れと賴みたりとは左もありなん

●牛肉から喧嘩

宮內井洞李建甲(二四)履洞六十八統六戶金成煥(四二)の兩人は肉類販賣をなし居れるものなるが一昨日午後四時頃建甲は成煥の家に至り牛肉を賣はんとせしに値段が高いとか何とか爭論の末が喧嘩となり兩人が負けず劣らず喧嘩する所を巡廻の巡査に說諭を受けて引下れり

●小供の喧嘩

美洞三統一戶南聖(十二)公洞居住金老馬(十三)の兩チョンガーは一昨日午後聖道宅の近所にて冗談から喧嘩を始めし所を巡査に見咎められ引分けれたり

●●●日曜說教

日の出町なる京城基督敎會にては今二十三日午前九時より日曜學校を開き同十時より神輿と題する宗像鴨四郎氏の禮拜說敎あり

●京城座の舞臺開き

京城座は壽町二丁目より本町七丁目に移し從前に改築を加へたるを以て大阪下りの中村長右衛門一座にて明日花々しく舞臺開きをなし引續き開場すると云ふ

●●●●●●●歌舞伎座の乳姉妹再演

歌舞伎座に於ける伊東一座の乳姉妹過日演ぜしが非常の好評なりしを以て本晩も之を再演することゝしたり尙同一座は本晩を以て千秋樂と

●一昨夜の自然主義者

一昨夜新町に飛び込んだる自然主義者は松葉五大桝十二高島四山遊一月下六京城十第一本十一淸月七皆春十三南山六第一支九井門九合せて八十六人消費額は四百八十四圓六十錢なりと

東京淺草觀世音
名物 紅梅燒
高等衛生茶用煎餅
あまから鹽煎餅
御進物用に適し腐敗の憂なし
京城南山町三丁目天滿宮前
梅林堂

稗史 富本半平の身上（一）

親に似ぬ子は鬼ッ子といふ事が厶いますので手前も親を見習つてドウ〱幇間に相成りした手前の親父と申しますのは黍鑑甲屋で可成りの生活を致して居りましたが根がチヨ〱の蕩樂者で年が年中遊びに浮身をやつし果ては身代を三分五厘……茶にして仕舞うといふ氣を起したので厶いますが夫れには幇間が一番呑氣らしくつて宜からうと其稽古に取り掛りました……親父を惡くいふ譯ではありませんが餘り褒めた心掛けの人で無かつたに相違ありませんテ

手前は此れでも日本橋田所町で生れ彼のろう名高い和田平の井戸で産湯をつかつたチヤキ〱の江戸ッ兒で厶いますが親父が御門の猿屋町から藏前の富坂へ引ッ越し淺草の千束町に落ち付いた時分には手前も宜い若い衆になつてチヤンガチヤカ〱と道具に音を立て一生懸命稼業に精を出して居りました親父の微志願は此千束町に越して來てから素人の方に聞かせ申したらーント御信用にならん機なれ噺で厶いますが實地の事ですからマア聞き下さい

親父は幇間にでもならうといふ氣の男でしたから幾つて居たには違ひないが親母も隨分呑氣に生れ付いたのですナ悴を始め宜い若い者の弟子共が一生懸命稼業を勵んで居る側で親父は親母の三味線で踊つたり跳ねたり夫れは〱大騷ぎをやらかして居るのです夫れも酒機嫌か何かで偶にやるのなら世間體も宜しう厶いますが全くの眞面目で朝から晩迄……毎日ど來て居るのですから手が付けられ無いおやアありませんか稼業物の道具の音チヤンガチヤカ〱でさへ宜加減騷々しい所へ持つて來てペンッン〱といふ三味線の根じめに碌でも無い親母の咽喉ドタンバタンといふ不調子な親父の足拍子で攻め立てられるのですから堪りません隣家近所は大概逆上せ上つちまつて中には其處から引ッ越した人などがあつた位ゐでした

其處で今のたしめ姐さん（今の有名なたさだの姉）家の親父が或女の所へ來て「如何だいあねら千束町にもトゥ〱狂人が出來ちやつたナ」などゝいつた位で誠に本氣の沙汰ぢやアありませんでした夫れでも一心といふものは恐しいもんで親父も如何やら斯やら茶が濁せる程の藝を覺ね込んで象て志願の幇間で押し出しました同時に千束町の家を疊んで此新吉原に移つて參りましたがハテ斯なつて見るとつまら無い氣がするのは手前で何だ馬鹿々々しい幾程此俺が精を出して稼業を勵んで見ても親父があのザマおやア張合が拔ッちもう此奴ア一番俺も親父に敗けない樣なウンど道樂をれッ始めて親父や親母に一と泡吹かせてやらうと碌でも無い謀見を起しました

●新聞料 ▲一枚金二錢 ▲一ヶ月前金四十錢 ▲三ヶ月前金壹圓 ▲六ヶ月前金貳圓 ▲郵税一ヶ月金拾錢
●廣告料 ▲五號活字十九字詰一行一回四十錢 ▲特別廣告五號活字十九字詰一行金五十錢
發行兼編輯人 秋山忠三郎
印刷人 高木久馬太郎
發行所 京城西小門通 京城新報社 電話 太一三番